閑人閑語

六月飛雪

●猪飼 國夫●

● 真夏の北京に雪が舞った？

東部太平洋の赤道海水温が低下するラニ―ニャ現象の影響で，日本の今年の夏は記録的な猛暑に襲われた．過去の最高気温の記録を数十年ぶりに塗り替えることになった．幸い7月の大雨のおかげで水不足には見舞われなかったが，新潟沖地震で原子力発電所が停止したために，関東地方は電力供給が綱渡り状態となってしまった．

一方，中国のネット情報によると，今年（2007年）の7月30日と8月6日の2回，北京市内の一部で大きさ1cm弱の雪片が5分ほどの間，散らついたそうである．この報道は誤報であるという説もあり，気象当局は，「酷暑の時期にそんな怪奇現象はありえない」と否定したそうである．しかし，実際にネット上には降雪状態を撮った写真が上がっている．

日本では真夏でも雷雨のときに雹（ひょう）や霰（あられ）が降る現象はたくさん観測されている．事情は中国とて同じとは思うが，雪片となるとよほど雷雲が低くまでたれ込めていて，かつ強力なダウン・バーストが吹いていないと起きない現象だと思われる．

中国でもあまり見られない現象ではあるが，ここ二十数年ほどの間で数回，各地で夏の雪が見られたそうである．1981年6月には山西省の標高1,500m程度の自然保護区で25cmもの積雪，1987年6月に河北省張家口市で，同じく8月には上海市で降雪があり，今年6月には甘粛省でも雪が見られたという．

● 京劇の題名

実は，北京で雪が舞った時期は，今年は陰暦の六月に当たる．すなわち「六月雪」である．この「六月雪」という言葉は，中国や台湾の人ならほとんどが知っている「京劇」の題名である．これは，もともとは元の時代に書かれた「竇娥冤（とうがえん）」という雑劇であった．

内容は，無実の罪で処刑される若い美女竇娥が，天に祈って[注]，六月に雪を降らせたというものである．本来「六月雪」は，めったに起こらないこと，起こるはずがないことなどの意味を持つ言葉であったのが，ここからさらに冤罪（えんざい）を意味する言葉にも使われるようになった．

● どこにでもある六月雪の原因

ファイル交換ソフトWinnyによって，悪意のあるワーム類に感染したパソコンから，いろいろな機関や企業の機密情報が流れ出す事件が起きている．

もちろん，そのような機密情報とWinnyを同じパソコンで扱った本人が悪いのであるが，2004年の5月にWinnyの開発者が「著作権法違反ほう助」容疑で逮捕されてしまった．このことは世界的にも異例の逮捕事件であり，日本のP2P技術の研究と発展を妨げる可能性が論じられた．

民事的には著作権を侵害された方は訴えを起こす権利はあるだろうが，多分，単なる著作権問題だけなら，この刑事処罰の問題は起きなかったと思われる．このことについては過去にもいろいろと論じられてきたが，筆者はやはり「六月雪」だと思う．道具の制作者を罰することができるなら，著作権を侵害するおそれのあるコピー機やデジカメ・メーカ，包丁など刃物を作るメーカも当然ながら処罰の対象になるべきである．

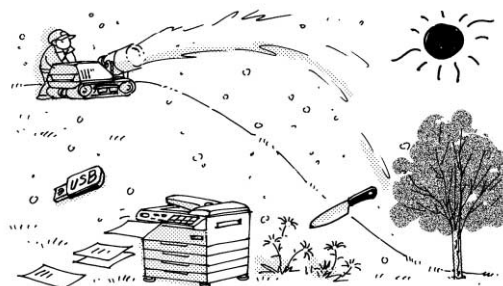
最近はUSBメモリも機密情報流出の原因になっている．フラッシュ・メモリを作るメーカやUSBメモリのメーカも「六月雪」にする必要が出てきた．あるいは，このように簡単にコピーできるパソコンのOSをばらまいている米国の会社も「六月雪」にしなくてはならないかもしれない．

● 機密情報管理体制の甘さが真犯人

組織が機密にしようと思っている情報が流出するには，自衛隊からのイージス艦情報の流出と同じく，ほとんどそこに人間が絡んでいる．Winny経由でワームを拾ってしまったのも同じことである．

肝心の情報管理体制を疎（おろそ）かにし，機密情報流出の原因をWinnyの制作者やパソコン利用者個人だけの責任にして，やたらと「六月雪」を作るのは，機密情報を狙っている方から見ると，あまり賢い方法には映らないかもしれない．

一層のことWinnyの作者のようなことを研究したいなら，現在はまだ知的所有権問題に比較的甘い中国へ行くというのも，一考の余地があるかもしれない．ただし，どこの国にいても機密情報へネット経由でアタックをかけるようなことをやる技術者や研究者になってほしくはない．

いかい・くにお　博士（工学）

冤罪の“六月雪”をどんどん降らせよう

注：竇娥は処刑前に「血濺白練，六月飛雪，三年大旱.」と祈った．なお，「練」は練り絹のこと，「雪」には“ゆき”のほかに“雪辱”など無念や冤罪を“はらす”という意味がある．「旱」は“干ばつ”の意味．